

エコプラザ(啓発施設)のあり方にかかる勉強会 主な意見

施設に関すること

- 開設から 28 年が経過して老朽化が進み、館内の急な階段など子どもや高齢者が利用しづらい状況であり、維持・継続は難しい。エコプラザが果たしてきた役割を他のかたちで行っていくなれば、廃止もやむを得ない。
- エコプラザも開設時は盛況であったが今は来場者も少ない。PR不足を感じ、廃止となれば残念である。
- 情報提供や施設見学は清掃センターなどでも実施されている。また、民間施設でもリサイクルなどに頑張っているところもあり、啓発につながっている。

リユース施策に関すること

- かつてはリユースショップの品は汚れや手入れが必要なものが多かったが、最近は良い品が並んでいる。リユースのあり方が変わってきており、本当にだめなものが廃棄されていると感じる。一人ひとりが使い続けるもの、リユースとして提供するもの、ごみに出すものを勉強してきている。行政としても施策のあり方を考える時がきている。
- リサイクル展示提供事業については他所での実施はなかなかできないことと思うが、知恵を絞って前向きに進めていくチャンスになればよい。
- 無料であるリサイクル品展示提供は市民にとって魅力的な事業ではある。取り組みの乏しいリユースの推進をどのように進めていくかを考えてほしい。
- どのような施設や事業であっても 30 年も続ければ、社会の状況や財政状況なども変化する。無料が必ずしも良いものでもなく、継続していくためには費用負担を求めることも必要。
- リユースとして次の人に引き継ぐのもよいが、品物を長く使う・使える状況をつくるのも重要。
- ネット取引やフリマアプリなどは、世代によっては縁遠いものとなる。ゼビアプリの使い方講座などの取り組みを講じてほしい。また、自治会やコミュニティ協議会などに声をかけるなど広く集客して実施した方がよい。
- 社会全体でリユースの機運を高める幅広い取り組みを進めたいとの方向性は非常に理解できるが、具体的な取り組み案は情報提供が中心でもったいない。もう少し行政が積極的に関与する施策を期待。

環境教育・情報提供に関すること

- ごみは誰もが共感できる問題であるが、施策として情報提供だけでは受け手である市民に届くか疑問。情報は多くあればよいものではなく、いかにアクセスしてもらうか、いかに共感して必要性を感じてもらうかが重要であるため、注力・工夫してほしい。
- 人口の多い高齢者層が不要となった物をどのように流通させていくかが一番の問題。ネットに疎い世代でもあり、市が情報提供の取り組みだけで解決を図ろうとするのは楽観的。行政として対応すべき部分は出てくると思う。
- 環境教育の推進、出前講座などは代替する取り組みがあるとのことだが、現状でも不十分なため更なる推進をお願いしたい。また、学校や地域と一体となって、子どもや学生に向けた啓発を長期的・積極的に取り組んでほしい。

民間事業者との連携に関すること

- 民間事業者との連携にあたっては、具体的な事業を提案してもらって連携していくことも検討しては。
- 民間事業者は利益が出なければ継続して取り組むことは難しい。民間でできることは民間にと言うが、うまくいかないこともある。行政が旗振り役を担うことも必要。